

私のドライアイ診療②

—石田眼科医院—



石田 誠夫 Nobuo Ishida
石田眼科医院 院長

診察時間：月～土曜日
8：30～11：00, 14：00～17：30
（※土曜日の午後は13：30～15：30まで）
休診日：日曜・祝日

〒943-0832
新潟県上越市本町2-2-31
TEL：025-524-4342

当院のドライアイ診療の特徴

涙点プラグ治療	血清点眼治療	サプリメント	実用視力検査	その他
○	○	○	○	結膜弛緩手術

ドライアイ診療に力を入れた始めたきっかけ

私がドライアイ診療に力を入れ始めたきっかけは、京都府立医科大学の横井則彦先生のご講演を拝聴したことにより、ドライアイ診療の重要性に気づいたからです。横井先生には新潟県上越市で、1999年と2014年にご講演いただいたことがあり、その頃から私は、ドライアイは日常診療で多くの比重を占めることは間違いなく、重要な疾患であると感じていました。ただし、横井先生のお考え、特に現在の眼表面の層別診断（Tear Film Oriented Diagnosis：TFOD）・眼表面の層別治療（Tear Film Oriented Therapy：TFOT）はとても奥が深く、そのレベルに追いつくには相当な努力が必要だと思っています。

また、当院にドライアイ患者さんが多く来院されることも力を入れる理由の1つでもあります。それは上越市が雪国という地域的な要因もあり、冬場は暖房による乾燥が原因でドライアイ患者さんが思った以上に多くなるからです。また、交通アクセスの面から考えると、ご高齢の患者さんが継続的に通院されるにはご家族の協力が必要で大変なことですが、それでも毎月通院されるご高齢のドライアイ患者さんもいらっしゃり、それほど症状に困っておられるのだと感じます。そのこともあり、高齢者に多い緑内障治療や白内障手術で発現する点眼液

が起因となるドライアイもしっかり診なくては行けないと、意識して診療に励んでいます。

じゃみじゃみ、ゴロゴロという訴え

当院は100年以上にわたり代々眼科診療を行っていますが、祖父の時代から「じゃみじゃみ、ゴロゴロ」という患者さんの言葉をよく耳にしていました。「じゃみじゃみ」とは、福井県を中心に、石川県、富山県で話されている方言で、アナログ放送終了後にみられる砂嵐の状態を表現する言葉ですが、今考えるとこれは、ドライアイの自覚症状だったのかもしれない。また、自覚症状でみると、厳しい自然環境で生活している雪国上越市の方は我慢強いのか、多少の不快感であれば医師に訴えずに我慢してしまう傾向にあり、ドライアイに気づきにくいのではないかと思います。そのため、ドライアイの自覚症状を取りこぼすことのないよう、患者さんへの聞き取りの際は「季節で症状の程度が変化するか」「車の運転中に症状がでるのか」など細かく聞くようにしています。

ドライアイ診療における取り組み、工夫

ドライアイ診療においてはTFOD、TFOTに則った診療を試みています。当院では「コーワDR-1」を初代からいち早く導入しており、最近では「コーワDR-1a[®]」を取り入れ、ドライアイ